

真の福祉を見つめて 医療福祉専門学校20周年



式典には、国立市長をはじめ施設関係者、高校の先生方など約110人が来席された。(パレスホテル立川)

東京YMCA医療福祉専門学校が開校20年を迎え、6月11日、パレスホテル立川を会場に記念式典を開催しました。1996年(平成8年)の開校当初は、「東京YMCA国際福祉専門学校」の校名で、介護福祉士の養成に注力していましたが、2000年に3年制の作業療法科を増設し、「医療福祉専門学校」となりま

した。現在は約180人の学生が在籍し、施設や病院などでの豊富な実習を積み重ねながら、福祉に必要な美学やケアの精神を学んでいます。カレッジスピリットは「互いに愛し合いなさい」(新約聖書「ヨハネによる福音書」15章12節)。人間愛

に基づいた本物の医療・福祉を実現できるスペシャリストを育てるため、専門知識や技術だけでなく、地域のボランティア活動にも積極的に参加するなど、豊かな人間性を育むことに力を入れています。東日本大震災以後はYMCA石巻支援センターでのボランティアも継続してきました。

卒業生は1500人を超え、老人ホームや障がい者施設、病院などで活躍しています。校友会も大きく育ち、今回の式典も全面的にサポートいただきました。

記念式典には、国立市長をはじめ、実習先や就職先の業界関係者、高校の進路指導の先生方など約110人が来席され、良き人材を送り出してきたことへの感謝と今後の期待のメッセージを頂戴しました。また記念礼拝では、同校の講師で上馬牧師が、聖書の示す「愛すること」「人に仕えること」について力強く説教されました。

八尾勝校長は、「高齢になることなどによって日常生活に不自由なところが出てくる、そういう人に関わることを喜びとする学生たち、あるいは心身に障がいを得た患者さんたちに寄り添い、生きていくことの素晴らしさを改めて思い起こすことができるような関わりをもとうとする学生たち、また、そういう学生たちに知識を教え、その心を育むことを自らの使命とする教員たち、そういう人たちの群れによってこの学校は成り立っています」と挨拶。席上では卒業生や教職員による熱のこもった論文が読まれた「研究紀要」が配布されました。

福祉人材の枯渇が社会問題となる中、これから福祉を真剣に見つめ、良き人材を育てていくYMCAの学校として、大きな期待が寄せられています。(広報室)

「平和を作りだす人たちは、さいわいである。彼らは神の子と呼ばれるであろう」(新約聖書「マタイによる福音書」5章9節)

先日、朝の地下鉄に乗っている時「先行の電車でお客様同士の喧嘩があり、電車が遅れています」とアナウンスがありました。数分後に再度「また他の電車でもお客様同士の喧嘩があり、さらに電車が遅れます」とのことでした。きつとお互いが自分の正しさを主張して争いになったのでしよう。私たちはいつまでも自分が正しいので

す。すべての戦争は正義のために始まりま。す。今、国民を守るために国防軍が必要と言いますが、沖縄戦の記憶からは光だけだ」と言っています。平和を作りだすために必要なのは人間の正義ではなく光(神の愛)なのです。抑止力のための軍隊ともいわれますが、9・11の事件が抑止力と言言葉虚しくさせました。本当に大切なものは皆が必死で守るものです。毎年8月に思うことは平和を作りだす人(国)になりたいということです。(総主事 廣田光司)



↑教職員みなさん。前列右4番目が徳久俊彦理事長。前列右5番目が八尾勝校長。昨今は教職員となる卒業生も増えてきた。

きく育ち、今回の式典も全面的にサポートいただきました。

記念式典には、国立市長をはじめ、実習先や就職先の業界関係者、高校の進路指導の先生方など約110人が来席され、良き人材を送り出してきたことへの感謝と今後の期待のメッセージを頂戴しました。また記念礼拝では、同校の講師で上馬牧師が、聖書の示す「愛すること」「人に仕えること」について力強く説教されました。

八尾勝校長は、「高齢になることなどによって日常生活に不自由なところが出てくる、そういう人に関わることを喜びとする学生たち、あるいは心身に障がいを得た患者さんたちに寄り添い、生きていくことの素晴らしさを改めて思い起こすことができるような関わりをもとうとする学生たち、また、そういう学生たちに知識を教え、その心を育むことを自らの使命とする教員たち、そういう人たちの群れによってこの学校は成り立っています」と挨拶。席上では卒業生や教職員による熱のこもった論文が読まれた「研究紀要」が配布されました。

福祉人材の枯渇が社会問題となる中、これから福祉を真剣に見つめ、良き人材を育てていくYMCAの学校として、大きな期待が寄せられています。(広報室)

「平和を作りだす人たちは、さいわいである。彼らは神の子と呼ばれるであろう」(新約聖書「マタイによる福音書」5章9節)

先日、朝の地下鉄に乗っている時「先行の電車でお客様同士の喧嘩があり、電車が遅れています」とアナウンスがありました。数分後に再度「また他の電車でもお客様同士の喧嘩があり、さらに電車が遅れます」とのことでした。きつとお互いが自分の正しさを主張して争いになったのでしよう。私たちはいつまでも自分が正しいので

す。すべての戦争は正義のために始まりま。す。今、国民を守るために国防軍が必要と言いますが、沖縄戦の記憶からは光だけだ」と言っています。平和を作りだすために必要なのは人間の正義ではなく光(神の愛)なのです。抑止力のための軍隊ともいわれますが、9・11の事件が抑止力と言言葉虚しくさせました。本当に大切なものは皆が必死で守るものです。毎年8月に思うことは平和を作りだす人(国)になりたいということです。(総主事 廣田光司)

会員芸術祭に 85の力作



「第18回会員芸術祭」が6月20日〜27日に開催され、会員や関係者など64の個人・グループから、計85の作品が展示さ

れました。会場は東陽町センター1階の多目的室。外からも見えるガラス張りの会場で、多くの来館者が足を止め、絵画、書画、陶芸、手芸、彫刻などの個性あふれる作品を楽しみました。

オープニングセレモニーでは、菅谷功先生(新槐樹社準委員)から講評があり、またマリンバ奏者の奥平哲也さんが本格的な演奏を披露してくださいました。

なお、今年もまた芸術祭実行委員会が運営全般を担い、また在京各ワイズメンクラブが受付に協力くださいました。感謝して報告します。(会員部 戸坂昇子)

ネパール地震募金に220万円

ご協力ありがとうございました

4月25日に発生したネパールの大地震のため緊急支援募金をお願いしましたところ、多数の個人・賛助会企業がご協力くださり、6月末日時点で約220万円が寄せられました。皆さまのご協力に心より感謝申し上げます。

ネパールYMCAは、世界からの支援をもとに今後、チャイルドケアセンターの施設改修やクルサニバリにある国立ブッダ小学校再建、小学生200人への奨学金提供などを予定しています。

東京多摩いのちの電話30周年

「いのちの電話」はご存知のとおり、悩みや相談を無料で受ける電話相談で、全国各地で活動しています。1985年6月にスタートした「東京多摩いのちの電話」は、設立前の2年間、立川YMCA(現在の東京YMCA西東京センター)を仮事務所とするなど、東京YMCAと深いつながりがあります。当時の担当主事であった鶴清忠主事は発起人の1人となって、事務局スタッフの発掘やボランティアのリクルート、研修、広報など準備に携わり、その後現在に至るまで代々のYMCA主事が事務局や役員を務めてきました。

30年の間に受けた電話は45万。900人のボランティア相談員がさまざまな悩みに耳を傾けてきました。その30周年を記念し、6月6日には柳田邦男氏による記念講演会と感謝会が開催され、約500人が集いました。11月には以下のチャリティーコンサートを行ないます。ぜひご予約ください。

出演：天満敦子(ヴァイオリン)／勝呂真也(ピアノ)
日時：11月13日(金) 19:00～
入場料：2,500～4,000円(全席指定)
曲目：ホルスト「ジュピター」、小林秀雄「落葉松」ほか
会場：府中の森芸術劇場どりーむホール
問合せ：東京YMCA総務部(Tel. 03-3615-5562)

東京-NY フロストバレー便り

ニューヨークの日本語補習校の歴史を調べてみた。1962年にマンハッタンの日本クラブに最初の「日本語教室」が開設され、日本に縁のある36名の子どもたちが通い始めた。1975年にはニューヨーク州より学校法人として認可される。授業は「日本にいずれ帰る子どもたちが日本の学校についていけるようにすること」を目的とし、日本の学習指導要領に準拠したカリキュラムを、外務省、文科省の指導援助を受けて実施。今も多くの子どもたちが週末に通っている。

しかし国際結婚などでアメリカに長く生活する子どもの中には、この授業についていけない子どももいる。

そんな中、2011年に発足したブルックリン日本語学校の方が私どものオフィスを訪れた。この学校は、「継承語教育」に焦点をあてた私立の週末補習校である。「継承語」は「第二の母語」とも言い換えられる。英語が第一言語になりつつある子どもたちに、日本語を第二外国語

としてではなく、継承語(第二母語)として学ぶというものである。

話し合いを重ねた結果、昨年よりこの学園の日本語キャンプの運営を任せられ、コラボレーションキャンプを毎春に実施するようになった。キャンプでは「東京フロストバレーYMCAパートナーシップ」でトレーニングを受けた、アメリカ育ちのリーダーが関わる。英語の会話の中にも、日本語が自然と入り、日本の遊びや習慣、マナーなどを楽しみながら学んだ。大成功だった。同行された保護者は、「子どもたちの明るい将来像が目に見え感動した」と涙ながらに話された。子どもたちからも、「将来自分も、日本語も英語も話せるカッコいいリーダーになりたい」という感想が寄せられた。

年々国際化が広がる中、日本に縁のある子どもたち、青年たちの限らない成長を願い、このパートナーシップは歩んでいる。サマーキャンプはこの夏37回目を迎えた。

(在フロストバレーYMCA 星住秀一)